

【みずほビジネスイノベーションフォーラム 兼 GHG ソリューションズ第 97 回勉強会】

カーボンプライシング後の未来を展望する – 2050 年実質ゼロに備えよ

■趣旨

世界の気候変動政策は、脱炭素化に向けた大きな転換期を迎えています。10月26日、菅首相は温室効果ガス「2050年実質ゼロ」を目指すことを宣言しました。この野心的な目標を実現するためには、再エネの大幅導入や技術革新に加え、産業構造の転換などの抜本的な変革が必要とされています。そして排出規制の強化やカーボンプライシングといった施策への注目が高まりつつあります。海外においても、欧州は2050年までのカーボンニュートラル達成を目標に掲げ、国境炭素税の導入を検討しています。世界最大の排出国である中国も、2060年までのカーボンニュートラル目標を発表しています。このように世界が脱炭素化に大きく舵を切る中で、日本でも炭素税や排出量取引などの本格的なカーボンプライシング導入に向けた議論が加速する可能性があります。

カーボンプライシングは、ESG投資やグリーンファイナンスを加速させるシグナルとなり、民間企業にチャンスとリスクをもたらすとされています。国内企業の中にも、カーボンプライシング導入にいち早く備え、シナリオ分析を通じて自社の機会やリスクを検証する事例が生まれ始めています。

しかし多くの企業は、カーボンプライシング導入後の自社ビジネスへの影響をイメージできずにいます。

そこで、本フォーラムでは、カーボンプライシングの国内外の最新動向や導入を巡る潮流の変化、カーボンプライシング後の国内ビジネスの姿を、業界などのマクロの視点や素材などのミクロの視点、あるいは再エネ電力市場といった複数の側面から解説します。その上で、新型コロナによる影響や今後の政策を展望することにより、2050年実質ゼロやカーボンプライシング後の未来を考えるきっかけとなる機会にしたいと考えています。

■概要

日時 : 2020年12月1日(火) 13時30分~16時30分

参加費 : 無料

主催 : みずほ情報総研株式会社

■プログラム

時間	講演者及び講演タイトル
13:30~13:35 (5分)	開会の辞 みずほ情報総研 常務執行役員 廣崎 淳
13:35~14:00 (25分)	基調講演「気候変動対策の切り札 カーボンプライシングの内外状況と国内展望」 早稲田大学 政治経済学術院 教授 兼 環境経済経営研究所 所長 有村 俊秀 氏
14:00~14:20 (20分)	講演1「カーボンプライシング×導入を巡る新潮流」 みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 次長 柴田 昌彦
14:20~14:30 (10分)	休憩
14:30~14:45 (15分)	講演2「カーボンプライシング×未来 ①どうなる主要業界」 みずほ情報総研 環境エネルギー第1部 チーフコンサルタント 平山 智樹
14:45~15:00 (15分)	講演3「カーボンプライシング×未来 ②どうなる主要素材」 みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 コンサルタント 小林 将大
15:00~15:20 (20分)	講演4「カーボンプライシング×未来 ③どうなる再エネ電力市場」 みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 チーフコンサルタント 中村 悠一郎
15:20~15:35 (15分)	講演5「カーボンプライシング×政策課題」 みずほ情報総研 環境エネルギー第1部 課長 元木 悠子
15:35~15:45 (10分)	休憩
15:45~16:25 (40分)	フリーディスカッション
16:25~16:30 (5分)	閉会の辞 みずほ情報総研 環境エネルギー第1部長 松井 重和

■お問い合わせ先

担当 : 環境エネルギー第1部 cp-bif-i@mizuho-ir.co.jp

□ 有村 俊秀 氏

早稲田大学政治経済学術院教授、同大学環境経済経営研究所所長



1992年 東京大学教養学部卒業。
1994年 筑波大学大学院環境科学研究科修士課程修了。
2000年 ミネソタ大学大学院経済学研究科博士課程修了、Ph.D.取得。
2006～08年 Resource for the Future (米国ワシントン) /ジョージメーソン大客員研究員
2011年 上智大学経済学部教授、同大学・環境と貿易研究センター・センター長。
現在 早稲田大学政治経済学術院教授、同大学環境経済経営研究所所長。

専門は環境経済学、応用計量分析 (2020年9月現在)。
編著書に Carbon Pricing in Japan、「入門環境経済学」「地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析」「環境経済学のフロンティア」等。
Journal Environmental Economics and Management, Journal of Association of Environmental and Resources Economics, Energy Policy 等の学術誌に論文を多数発表。
環境省中央環境審議会カーボンプライシングの活用に関する小委員会委員 (2018年～現在)、
環境省中央環境審議会国内排出量取引制度小委員会 (2010年) 等の委員を歴任。

□ 柴田 昌彦

みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 環境ビジネス戦略チーム 次長



東京大学大学院工学系研究科修士課程修了 (修士 (工学))
2001年富士総合研究所 (現・みずほ情報総研) 入社
入社以来一貫して企業の環境・ESGテーマの長期ビジョン・戦略の策定支援を担当。グローバルスタンダードの分析、日本企業の戦略的対応支援を得意とし、最近では「TCFD」対応支援に注力。カーボンプライシングをはじめとした脱炭素シナリオ下における企業経営へのインパクト評価や対応戦略の構築支援に従事。「グローバル動向を踏まえた開示と日本企業」(日経ビジネスイノベーションフォーラム 2020年2月) 等、講演多数。

□ 元木 悠子

みずほ情報総研 環境エネルギー第1部 地球環境チーム 課長



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了 (博士 (政策・メディア))
2008年みずほ情報総研入社
国立環境研究所や産業技術総合研究所の業務で、アジア太平洋地域統合評価モデル (AIM) や MARKAL (Market Allocation) モデルを用いた中長期エネルギー需給分析、気候変動緩和策の定量評価を実施。また、環境省業務で、税制グリーン化やカーボンプライシング (炭素税、排出量取引制度) の調査分析や「税制全体のグリーン化推進検討会」、「中央環境審議会カーボンプライシングの活用に関する小委員会」、「カーボンプライシングのあり方に関する検討会」等の運営を支援。

□ 平山 智樹

みずほ情報総研 環境エネルギー第1部 地球環境チーム チーフコンサルタント



東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程修了 (修士 (環境学))
2014年みずほ情報総研入社
主に環境省の中長期計画の策定支援業務、国立環境研究所のアジア太平洋地域統合評価モデル (AIM)、プロジェクトに従事。専門はモデル定量分析で、エネルギー需給モデルを用いた温室効果ガス・大気汚染物質のシナリオ分析、技術選択モデルを用いた対策・施策ごとの排出削減効果の分析等の経験が豊富。気象予報士。

□ 中村 悠一郎

みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム チーフコンサルタント



京都大学大学院エネルギー科学研究科修士課程修了 (修士 (エネルギー科学))
2015年みずほ情報総研入社
環境価値取引制度の運営・設計・調査業務、エネルギー供給構造高度化法事務局等の官公庁業務の他、民間企業向けに非 FIT 再エネ発電事業や環境価値を活用した新規ビジネスの検討等に関するコンサルティングに従事。電力システムに精通し、日経エネルギーNext や日本ビジネス出版等での講演実績多数。

□ 小林 将大

みずほ情報総研 環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム コンサルタント



慶應義塾大学大学院経済学研究科前期博士課程修了 (修士 (経済学))
2019年みずほ情報総研入社
主に企業のサプライチェーン全体での温室効果ガス排出量 (Scope1,2,3) 算定や、中長期温室効果ガス排出削減目標 (SBT : Science Based Targets) 設定、ライフサイクルアセスメント (LCA) 等に関する官公庁業務、民間企業向けコンサルティングに従事。